

令和8年度 福岡市農林業振興審議会 第1回農業分科会 議事録

1 開催日

令和8年4月10日（金） 14:00～16:00

2 開催場所

アクロス福岡 大会議室（対面及びオンライン併用開催）

3 出席者

（1）福岡市農林業振興審議会農業分科会委員

出席 13名

秋元委員（オンライン）、近江委員、加藤委員（オンライン）、田中委員、  
野村委員、丸小野委員、矢部委員、たのかしら委員、淀川委員、城戸委員、  
柴田委員、高木委員、藤野委員、

欠席 4名

岡安委員、川上委員、中村委員、笠委員

（2）福岡市

出席 6名

農林水産局長ほか

4 傍聴者

0名

5 次第

（1）委員紹介

（2）議題

①分科会会長及び分科会会長職務代理者の選出について

②現計画の振り返り及び課題整理について

③次期計画の構成等について

6 議事

【事務局】

皆様こんにちは。

定刻になりましたので、令和8年度福岡市農林業振興審議会第1回農業分科会を開催いたします。

私は本日の進行を務めさせていただきます農林水産局総務農林部長の平川でございます。よろしくお願いいたします。

まず初めに、本日の出席委員数でございますが、農業分科会委員 17 名のうち、現在 13 名にご出席いただいております。

なお、本日は岡安委員、川上委員、中村委員、笠委員が所用によりご欠席でございます。

本日は会場とオンラインを併用いたしましたハイブリッド形式で開催いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

**【事務局】**

それでは議題に入らせていただきます。

まず、議題 1 の「分科会会長及び分科会会長職務代理者の選任について」でございますが、今回初めての農業分科会となりますので、会長及び会長職務代理者の選任を行う必要がございます。

会長の選任についてでございますが、審議会規則第 10 条第 3 項の規定により、委員の互選により選任することとなっております。会長の選任につきまして、ご意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。

**【委員】**

会長は、長年審議会委員を務めていらっしゃる学識経験者の「矢部委員」をお願いしてはいかがでしょうか。

**【事務局】**

ただいま、矢部委員を会長にとのご推薦がありましたが、他にご意見はございませんでしょうか。

(発言者なし)

**【事務局】**

他にご意見がないようですので、矢部委員に会長をお願いしたいと思います。矢部委員いかがでしょうか。

**【矢部委員】**

はい。承知いたしました。

**【事務局】**

ありがとうございます。それでは、当分科会の会長は矢部委員にお願いいたします。矢部会長は会長席へのご移動をお願いいたします。

それでは改めまして、矢部会長より一言ごあいさつをお願いいたします。

【会長】

矢部でございます。今回、農業分科会の会長を務めさせていただくことになりました。

この分科会は審議会委員のうち、特に農業分野にお詳しい委員の方々にご参加いただいております。前回の審議会では、福岡市から計画策定に当たって諮問をお受けいたしました。その際、農業を取り巻く情勢として、農業従事者の減少・高齢化、資材費の高騰という問題が挙げられました。特に今は、ホルムズ海峡の封鎖をはじめとする国際情勢に関連して、燃料価格はもちろんのこと、肥料代、そしてそれに関連する様々な農業資材も高騰しております。

市の農業振興のほかにこれらの新たな課題の解決に向けて、どのように取り組んでいくべきか、この分科会で委員の皆様からご意見を伺いたいと思っております。よりよい計画策定となりますよう、活発なご審議をお願いいたしまして、私のあいさつとさせていただきますと思います。よろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

次に、会長職務代理者の選任でございますが、会長職務代理者は、審議会規則第10条第5項により、分科会会長が指名するとされておりますので、矢部会長からご指名をお願いいたします。

【会長】

私としては、岡安委員にお願いしたいと考えております。

【事務局】

ただいま、矢部会長より岡安委員にというご指名がありましたが、本日、岡安委員は所用によりご欠席されておりますので、後日、事務局から、岡安委員のご意向を確認したいと思っておりますが、皆様、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

【事務局】

ありがとうございます。それでは確認の結果は、次回の2回目の分科会においてご報告いたしますので、よろしくお願いいたします。

【事務局】

それでは続きまして、議題2に入らせていただきますが、ここからの進行は矢部会長にお願いいたします。

【会長】

改めまして会長の矢部でございます。よろしくお願いいたします。

それでは次第に従いまして、進めさせていただきたいと思います。会議の円滑な進行に委員の皆様のご協力をお願いしたいと思います。

早速、議題2の「現計画の振り返り及び課題整理について」、事務局よりご説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

議題2「現計画の振り返り及び課題整理について」 事務局より説明

【会長】

どうもありがとうございました。

事務局からのご説明を踏まえまして、ご意見などございますでしょうか。どの視点からでも構いませんので、ご意見いただければと思います。よろしくお願いいたします。

【委員】

福岡市の農業関連の事業については立派だと思っていましたが、今年度の市の予算割合をみると、「子供の育成や教育に」という項目が31%であるのに対し、「農林水産業の振興」は0.9%となっています。取り組んでいる事業はたくさんありますが、それに比べると予算が追いついていないように感じております。

また、現在、認定農業者の所得目標は440万円ですが、440万円というのはそれほど高い金額ではなく、農業所得を上げていく施策が必要です。直接支払制度や生産安定事業における基準額の増額等なども考えながら、取り組む必要があると考えております。

【事務局】

ご意見ありがとうございます。

まず、予算の話がございましたが、福岡市の人口は現在167万人を超え、予算規模も年々大きくなっております。若い人も多く、どうしても、子育てや教育といった施策の方が予算規模としては大きくなりますが、この5年間で農林水産局といたしましても、現計画に基づいて、例えば、営農を続けていくための生産基盤の整備として、農業用機械の購入支援などを実施してきたところでございます。また、園芸ハウスについても、関係団体の要望を受けて予算の確保に努めたほか、昨年度から新設だけではなく長寿命化も補助の対象とするなど、力を入れて取組みを進めているところでございます。

農業を取り巻く情勢が厳しい中でも、引き続き、事業をしっかりと実施していくための予算確保に努めてまいりたいと考えております。

それから、農業所得についてもご意見ございましたけれども、売上から様々な経費を差し引いたものとなりますので、売上の増加と経費の縮減が重要であると考えております。

専業農家の方にとっては、職業として農業を続けていく上で重要な指標になると思いますので、現在の所得水準は増加傾向ですが、更なる向上に向けて、農業経営の後押しをしっかりと行ってまいります。

#### 【委員】

外部環境が大きく変わり、原油価格の高騰で、農家も不安を感じています。自社のECサイトには約1万件の生産者が登録されておりますが、離農のため退会するというケースがここ半年で急増しております。今後、これまでよりも厳しい状況が想定されることから、強い危機感を持って、ギアを上げて取組みを進めていく必要があると感じています。

そのような前提を踏まえた上で、次の担い手にしっかり農業を経営としてやってもらうための戦略を、解像度を上げて取り組んでいくべきと考えております。例えば、地域計画においては、全国的に次の担い手に農地を集約できているのは約1割で、現状維持のような形の地域計画となっているのがほとんどで実効性がなく、強い危機感を感じています。本当に次の担い手に農地が集約される形で地域計画が策定されているかを数字として追っていただきたいと考えております。

また、新規就農者について、生産技術の向上も必要ですが、やはり経営者としての育成が重要だと考えております。しっかりと利益を出せるよう、農家同士の情報交換ネットワークの構築や勉強会など、経営の知見を広げていく取組みへのサポートをお願いいたします。

最後に、学校給食での活用などで、市内産農産物の需要創出・地産地消の推進に取り組んでいると思いますが、既存の取組み以外に、例えば、公共施設や市のイベント等での農産物の新たな需要の創出についても、検討していただきたいと思っております。

#### 【事務局】

ご意見ありがとうございました。

まず、担い手の減少については、前回の審議会でも、国の食料・農業・農村基本計画の前提である基幹的農業従事者の減少についてご紹介いたしましたとおり、主力の農業者が70代であり、将来的なリタイアが見込まれるという構造的な問題を抱えているところです。市といたしましても、若い農業者が農業を続けていくことができるよう、栽培技術を身に付けてもらうための研修などを実施するとともに、新規就農者の国費での支援が終わってからも、関係機関と連携した圃場巡回など、農業経営への支援を続けております。安定的に農業経営を行っていくためにも、専門家の協力などもこれから広げていく必要があると考えております。

また、地域計画につきまして、後程また詳しくご紹介させていただきますが、現在、市内の農用地区域約1,600haの約4割にあたる626haの農地が地域計画の中で目標地図に位置付けられておりますが、10年後の将来がまだ見据えられないという方も多くいるのが現状です。地域協議の場に出向きましても、地域ごとの課題ももちろんございますが、特に、市

内に小規模・兼業農家が多い中で、大規模農家に集積していくことは難しく課題であると感じているところです。今回、今後5年間の計画を作っていきますが、農地がちゃんとその次の世代に引き継がれていくよう、取り組んでまいりたいと思います。

2点目が経営者としての育成につきまして、若い農業者の方の中には、経営感覚を磨くために様々なことに取り組まれている方もいるほか、市においても、女性未来農業サポーターや青年農業者連絡会といった組織において、横の繋がりを構築しながら、ノウハウなどが共有できるような仕組みづくりに取り組んでおります。特に最近では、生産性向上の観点から、スマート農業を活用している農家の方のノウハウやデータといった優良事例の情報提供などにも取り組んでいるところですが、先ほどの委員からのご指摘のとおり、経費が増えていく中で、農業経営の難しさもご意見としていただいておりますので、経費の縮減と売上の増加を両輪で進め、経営の安定化を図ってまいりたいと考えております。

3点目が需要の創出につきまして、これまでも特に学校給食を中心として市内産農産物の活用を図っているところですが、例えば、スーパーなどで他の産地の品物が並んでいる中でも、市内産農産物を手に取ってもらえるように、更なる認知度の向上や地産地消の機運醸成に取り組む必要があると考えております。今後も、生産したものがしっかり売れる仕組みづくりについて、出来るところから検討してまいります。

#### 【委員】

今年度の農林水産局一般会計予算は、昨年度から比べて約12億円の増額となっています。予算だけを上げればいいわけではありませんが、しっかりと確保していく必要があると考えております。

農業者の方とお話しする中で、近くに耕作放棄地があって、意欲がある方がここを耕作しようにも、農業ができる状態に戻すためにお金がかかるため、なかなかできないということをよく聞きます。他の地区でも同様のケースがあると思いますので、次の計画では、意欲ある農業者に対しての支援もしっかり考えていただきたいと思います。

また、現在、様々な補助金や支援策があり、今年度、「未来へつなげる農村の担い手支援事業」の要件緩和などに取り組まれているらしいようですが、市単独の補助金だけではなく、県・国の補助金と連動しているものもあると思いますので、適宜県・国とも連携しながら、引き続き要件の緩和についても、検討していただきたいと考えております。

最後に、給食に使用する市内産農産物の割合をもっと増やしてほしいという農家の声をいただいております。今まで以上に受け入れてもらえるように、課題なども見極めながら、取り組んでいただきたいと考えております。

#### 【事務局】

学校給食につきましては、市内では1日に12万食が提供されており、大量かつ安定的に、一定の規格の食材が求められております。農林水産局といたしましても、市内産農産物の利用割合を更に高めていきたいという思いがございますので、JAや教育委員会といった関係機関とともに、献立と出荷時期などを丁寧に調整しながら取り組んでいるところでござ

います。

【事務局】

現状につきましては、担当課長が説明したとおりでございますが、本項目をどう位置付けていくのか含め、次期計画における目標項目や目標数値については、次回以降の分科会に改めてお諮りした上で検討していきたいと考えております。

【会長】

ほかにご覧いただけますでしょうか。それでは、振り返りについては以上にして、続きまして、議題3の「次期計画の構成等について（案）」、事務局よりお話を聞きたいと思っております。よろしく願いいたします。

議題3「次期計画の構成等について（案）」 事務局より説明

【会長】

ありがとうございました。それでは、改めて委員の皆様からご意見を聞きたいと思っております。

【委員】

都市農業として、多様な農業のかたちを分類されて対策していくということは非常にいいと思っています。人口減少が待ったなしの状況で、大きな産地であれば、実習生で外国人を呼び込むことができますが、それが難しい都市農業では、特に戦略的に取り組まないと、感情的に農業を守りたいというだけでは済まされない状況だと思います。都市農業において、約80%以上は大規模の農家が食料生産を担っている現実を受けとめて、都市農業においての農業、農地の価値を更にシビアに整理する必要があります。

それを踏まえた上で、農業・農地の役割を地域によって位置付けして事業設計をするのはどうかと考えています。専業農家は手厚くサポートして、都市部に近い農地は、食料生産とは違う役割、例えば福祉や教育の観点で使用していくなど、農業・農地の価値を整理して、事業を行っていく必要があると思っています。

【事務局】

ご意見ありがとうございます。

ご指摘のあった農業・農地の価値につきましては、今回の現計画の振り返り等の中で、様々な方が様々な思いで農業に向き合っているということを改めて感じたところでござい

ます。今後、その思いを実施する農業振興のあり方について更に深掘りしていくため、いただいたご意見を踏まえながら、施策等を整理していきたいと考えております。

【委員】

「目指す姿」について少し気になった点がございまして、「続けたい、はじめたい、関わりたい」というところについて、今まで他の委員の方々のご意見を聞いて、経営のことやコスト増のことなど様々な課題がある中で、私としては「選ばれる」ということを第一に置いていただきたいと感じております。課題に対するモデルケースをしっかりと作りながら、人々から選ばれるということを意識して、目指す姿を作っていただきたいと思いますが、この点について、ご所見をお伺いさせていただきます。

【事務局】

ご意見ありがとうございます。

今回、特に4つの基本方針の中で、「市内産農産物が選ばれる環境をつくる」、数多くある農産物の中から市内産であるところにこだわりを持って、多くの人に手に取ってもらう、選んでもらうということを意識してこの方針を掲げたところでございます。

ただいまのご指摘については、いわゆる業として農業を選んでもらいたいという思いだと理解しておりますが、農業従事者数が全国的な傾向としては減少傾向にある中で、福岡市で農業を続けたい、はじめたいと思えるよう、この5年間の目指す姿の実現に向けた取組みを進めてまいりたいと思っております。

【委員】

本当にいろいろ取り組んでいただいていることを実感している一方で、地域の農業者からは「大規模農家を優先している」という声も聞かれており、小規模農家でも使えるよう、補助・助成制度の要件を少し緩和してほしいと思います。

また、具体的な事業について、3点申し上げますと、まず1点目に生産安定事業は様々なところでお話しておりますが、基準価格はちゃんと再生産できるような価格となるよう見直しを検討いただきたいと考えております。

2点目は、農地の固定資産税についてですが、市街化区域内の農地は固定資産税が高すぎて、採算が合わないという声がありますので、例えば、一定の売上げを達成したら、固定資産税を減免するなど、農業に励むことができるような制度があるといいと思います。

最後に、農業機械については稼働率を上げることが重要ですが、1年のうち少ししか使わない機械もございます。例えば、JA ファームなどに預けた上で、リースとして使用できる制度があれば、新規就農者や担い手への支援になると思っております。

【委員】

福岡市には農業者が約2,500人しかおりませんが、本当に農業が好きでやっている人が多くいらっしゃると思います。自分は珍しい西洋野菜を作っていますが、珍しい野菜でも売れるポ

テンシヤルが福岡市にはあります。少し都心から離れるだけで農地があるというのは、世界のどこの都市にもない特徴であり、環境的にも素晴らしい場所だと思っております。農業者全員の意見を聞きながら、「もう年齢だから辞める」というような寂しいことを言わせないような農政をしていただきたいと思います。

#### 【委員】

農業振興に頑張って取り組んでいただいていると思いますが、大規模農家を守るための施策が多い気がしており、小規模農家でも使いやすい制度となるよう、要件の緩和を検討していただきたいと思います。

例えば、補助金の要望を出しても、実際に補助金が入ってくるのが1年後というケースもあり、必要なときに手元にお金がないことがあります。また、福岡市の東部の方では大規模な農家は、市外に農地がある出作の人が多いのが現状ですが、それでも、福岡市に多く出荷し、福岡市の食を支えています。しかし、補助金制度の多くは属地主義で、福岡市の補助金制度が使えず、出先の自治体で補助金を申請しようとしてもうまくいかないケースも聞きます。ぜひ、そのような実例も踏まえまして、要件の緩和に取り組んでいただきたいと思います。

#### 【事務局】

皆様ご意見ありがとうございました。

今回、次期計画を策定するにあたって、有識者の皆様から、様々な切り口や視点からご意見いただき、本当にありがたく感じしております。具体的な取組みについてのご意見もたくさんいただいておりますが、これまでも、本市では国や県の事業を積極的に活用しながら、その枠組みに収まらないような方に対しても、市民に近い基礎自治体として、一定の支援を行ってきたところでございます。

次期計画はあくまで目指すべき方向性を示す指針として整理することとなりますが、先ほどご意見いただいた、基準価格の見直しや補助金の要件緩和などを含めた今後の具体的な取組みにつきましては、次期計画の基本方針や施策を踏まえ、毎年度の予算要求の中で検討してまいりたいと考えております。

#### 【委員】

私からも意見を述べさせていただきたいと思います。

施策として4本柱がございますが、特に重要なのは「経営の確立を後押しし、担い手を確保する」だと思います。担い手を確保するというよりも、所得が上がれば自動的に担い手が入って来るとしますので、まずは所得の向上が重要です。担い手を確保するのではなく、各種取組みを進めた結果として担い手が確保される状況とするためには、生産基盤を作り、市内の農産物が選ばれるということが必要だと考えております。

また、「地域ブランディング推進」は「市内産農産物が選ばれる環境づくり」の枠に入れるべきだと思います。その他、「企業等の参画促進」も農村地域の活性化という枠でいいの

か改めて検討する必要があると感じております。

【委員】

計画の全体像の中で、「地産地消の推奨」ということで学校給食の活用について言及されていますが、給食といっても一概に学校だけではなくて、例えば大学の学食や病院食にも市内産農産物が使用される機会があればと思います。給食はいわゆる直営だけではなく、給食センターのような外部の会社が調理しているケースもあるため、そのような会社と上手に連携できれば、より地産地消が推進できると思います。

【事務局】

ご意見ありがとうございます。

先ほども地産地消の推進に関連して、学校給食における市内産農産物の利用割合についてご意見いただきましたが、ただ今ご指摘があったのは、学食や社員食堂、病院食といった、学校以外における給食に対するご意見かと思います。そこに市内産農産物を活用するというのは、確かにこれまでなかった取組みだと感じております。学校に限らないところでどのような取組みができるか、今後検討してまいりたいと考えております。

【委員】

これから計画を策定していく中で目標値を掲げていくと思いますが、所得金額が、目指す姿でも掲げられている“はじめたい”と思うような目標値を検討すべきだと思います。所得金額をまず目標に掲げて、掲げた目標値を目指せるような取り組み、仕組みを落とし込んでいくということが大事で、結果論ではなく目標となる金額が掲げられて、そこを目指していけるような計画になれば望ましいと考えております。

【事務局】

ご意見ありがとうございます。

先ほどからも複数の委員の方々から、農業を守っていく上で所得が重要であり、計画の中で大きく掲げるべきとのご意見をいただいているところです。次期計画の構成については先ほどご紹介いたしました、次回の分科会では目標項目の案をお示しさせていただいて、5年間の目標数値については3回目の分科会で検討してまいりたいと考えております。

【委員】

ありがとうございます。また、所得分析調査については、今回農家のデータを約2,000件調査されたとのことですが、ここに入っていない農家のデータも分析すると、問題点も見えてくると思います。ヒアリング調査では、認定農業者の基準をクリアした農家を対象として、どのように所得向上に取り組まれているかということを調査されていると思いますが、一定の売上をあげているような大規模農家だけではなく、課題を抱えているような農家の詳細な分析があれば、より問題点の掘り起こしができるのかなと思います。

### 【事務局】

資料4の農家所得分析調の結果につきまして、趣旨といたしましては、これまでも農家所得調査は毎年度実施しており、平均農家所得は年々上昇しているところですが、より詳しい内容を把握するために、今回の計画策定の参考として、調査結果の分析と特に所得が高い農家の方への聞き取りを行ったところでございます。ヒアリング調査では、栽培品目や生産規模も異なるいくつかの農家の方を対象に、所得向上に向けた取組みや、また現在の課題認識などを調査して、整理させていただいております。

新規就農者の方をはじめ、なかなか経営が思いどおりにいかない方も多数いらっしゃって、我々も圃場巡回などを通じて、生産の難しさなど様々なお話を聞いているところです。今回、所得については、計画の中で大きく掲げるべきというご意見もいただきましたが、一方で我々が今回の目指す姿を考えるにあたっては、必ずしも所得だけを追い求めるような方ばかりではないことを念頭に置きながら、全体として福岡市の農業をどのように守っていくのかというところを整理させていただいております。その上で、所得の向上については、市としても経営の主体である農業者の皆様を後押ししていきたいと考えております。

調査については、昨年度時間をかけて行ったものでございまして、これ以上の分析となると難しい部分がございますが、所得向上に向けた課題については、関係団体の皆様にご意見をいただくなど、様々な情報を活用しながら、解決に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

### 【委員】

“市内産の農産物が選ばれる”というのは、いかに市内産農産物に魅力があるか、価値があるかというところをどれだけ知らせるかというのが大きなポイントです。6次産業化という言葉が出てきたときに、加工品を作ることが目的となってしまう、どんな売り方をしたらいいのか、価格設定はどうしたらいいのか分からないまま、赤字になる事業者が多くいらっしゃいました。商品を作ることが目的ではなく、あくまで収益を上げることが必要だと考えております。

また、E Cについては、コロナ禍において、非常に重要な販路でした。福岡市にはたくさんの人や売り場があり、送料がかかるE Cよりも、福岡市の特性を活かした販路を開拓していくということは理解できます。しかし、福岡市を訪れないと商品が買えないとなると、せっかくの購入の機会が失われることとなるため、そういう意味ではE C自体は重要だと考えております。

最後に、計画の全体像についてですが、主な取組みとして「地域ブランディングの推進」とありますが、これは「市内産農産物が選ばれる環境をつくる」という施策の枠に入れるべきだと思います。同じく、「企業等の参画促進」についても、製造業者や流通業者との連携という意味では、同じ枠（市内産農産物が選ばれる環境をつくる）に入れるべきだと思います。

### 【委員】

農業はやはり儲からないと続かないのが基本です。儲かる農業であれば、後継者は自然と

出てくると思います。売り上げを伸ばす観点からすると、市内産農産物を選んでもらうことが大事で、そのためには積極的な発信が重要です。産地や行政が一緒になって、今後取り組んでいく必要があると思います。

また、学校給食については、現時点では、市内産農産物で賄えるだけの供給量があります。JAと協力しながら、年間通した栽培形態・スケジュールを構築できれば、給食での市内産の使用割合が伸びるとともに、地産地消の推進にもつながると思います。

#### 【事務局】

ご意見ありがとうございます。

まず、加工品開発と販路のお話についてですが、我々もこれまでいろんな取組みを通じて、商品開発や販売促進の支援を行ってきたところでございます。市内産農産物が選ばれる環境づくりというところで、委員のお話にもありましたが、開発が目的ではなく収益をあげていくために、今回の計画の中で方向性を明確にして、引き続き施策に取り組んでまいりたいと考えております。

また、売上向上と学校給食についてのご意見もいただきました。学校給食については、先ほどもございましたとおり、市内の生産量からすると、供給の面で難しい部分があると思いますが、その中で少しでも児童・生徒が市内産農産物に愛着を持って消費してもらうために、学校給食は大きな役割を果たしていると思っておりますので、今後、どのような工夫ができるかについては、関係団体等と調整しながら進めてまいりたいと考えております。

#### 【会長】

そろそろ時間となりましたので、本日の皆様からのご意見をまとめたいと思います。

福岡市内には多様な農家がいらっしゃいます。都市型農業といっても、市内の中心部に近い農家もいれば、都心部から離れている農家もいらっしゃる。また、専業で農業をされている方もいれば、どちらかという趣味・生きがいとして農業をされている方もいて、我々もどこを向いて議論していいのかというのは実は分かりづらいところがあると思います。どの農家をターゲットにしているのかというのが分かれば、我々ももっと焦点を絞ったコメントができたと思っておりますので、方針の作り方については、ターゲットを明確にして、より分かりやすいような形になればと思っております。

本日はこれで私のまとめとさせていただきますので、後は事務局の方に進行をお返しいたします。

#### 【事務局】

矢部会長議事進行ありがとうございました。

また委員の皆様におかれましては、貴重なご意見をたくさんいただき、ありがとうございます。今回いただきましたご意見は事務局の方で整理させていただき、また本日ご欠席の委員の方にもご意見を伺いまして、次期計画の策定を進めてまいりたいと考えております。

最後に事務局から事務連絡を2点申し上げます。

1 点目は本日の議事録についてですが、本日の議事録につきましては、情報公開条例に基づき公開することとなっております。事務局の方で案を作成いたしまして、委員の皆様にご確認いただいた後、ホームページで公表させていただきますので、ご協力をお願いいたします。

2 点目は次回の分科会についてです。2 回目の分科会は5月下旬を目途に実施を予定しております。次回は計画の素案についてご審議いただく予定としております。日程につきましては、追ってまた事務局の方から調整をさせていただきます。

それでは、これをもちまして、令和8年度福岡市農林業振興審議会第1回農業分科会を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。